

久保さんの思い胸に聞おう



久保さんの追悼碑前で、ひととき力強い春闘への誓い。故人の霊に
こたえるためにも、力いつぱい春闘を闘わなければ……。

故人の追悼碑の前で集会

三池労組と三池主婦会は、このほど元四山指導部前庭に組合員と主婦会員を集結、故久保清さん追悼・八二春闘集会を開き、久保さんの思いを胸に、八二春闘を力強く闘い抜くことを固く誓った。

三池労組は三池主婦会と共同の広場——故・久保清さんの追悼 婦会員約二百人を結集、故久保清さん追悼・八二春闘集会を開き、久保さんの思いを胸に、八二春闘を力強く闘い抜くことを固く誓った。

さらに決意固め春闘へ

三月二十九日といえば、あの三池闘争のとき、資本の手先の暴力団のアイクで久保さんが刺殺された、三池労組員にとっては忘れられない日だ。今から二十一年前のこの日。久保清さんは、ストライキを守るために、組合員仲間や全国からかけつけてきた。

北海道で災害続く

落盤などで二人死亡

依然として北海道の炭鉱で災害が起き、坑内労働者の命が奪われ続けている。三月十六日、まず幌内炭鉱(北海道三笠市幌内)で落盤があり、埋没した職員の松川義則さん(45歳)が死亡した。

三池炭鉱でも事故災害頻発

会社からの連絡によれば、落盤が起きたのはその日の午前十一時四十五分ごろらしく、同炭鉱の中部七片五層のロング松で、松川さんはその時刻、私の肩ステイブル座で、枠をはずして手直し作業し

次の公判日程

四月二十三日午後一時から、福岡地裁で、ひき続いて、吉田・曙病院院長に対する会社側弁護士の反対尋問。

三池大災害裁判公判 きたる五月二十一日午後一時十分から、同地裁で。

組織越えて団結を

職場分会長会議が決意

三池労組は、三月二十六日三長会議を開き、八二春闘への具体川指導部・港務指導部で職場分会的取り組み方について意志統一を



職場分会長会議。真剣な交流のあと、大いに職場新聞活動など強め、がんばる決意を固めた。

頼もし春闘の歩み

大牟田・荒尾勢いづく

八二春闘は、課題が大きいほどに盛り上がり、いま一歩だが、その歩みがすすむにつれ大牟田・荒尾では、独自の形をとりながら勢いを見せ始めてきた。

現在三池炭鉱の労働者は、職員に鉱員、社外工と差別され、また組合は分裂され、三池労組員はお互いにバラバラにされるなど、きびしい資本の支配のもとで苦しんでいる。もう残業・公休出勤なしには日々の暮らしを維持できないところまで追いこまれているとき、分会長会議は組織を越えて団結して闘うために努力することを申し合わせた。

要求も、二万五千元(二%)から二万円前後がほとんどで、今後の足どりはまず大牟田で四月一日ストライキ宣言地区集会、同月中旬総決起集会、同じく十七日反安保・護憲集会が、また荒尾ではすでに地評のもとに結集された活動家集団が、未組織事業所の労働者へのピラ配り、春闘学習会の開催などの行動を積み上げ、それぞれ春闘の闘いを強めていく計画。歩みは頼もしい。



大牟田電報電話局の裏門に、春闘をアピールする愉快な看板。